

2020年5月3日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

復活節第4主日 メッセージ

「わたしは羊の門である」

福音書 ヨハネによる福音書10章1節～10節

主の平和が皆さんと共にありますように。

新型コロナウイルス感染症蔓延拡大予防として東北教区の全教会の主日礼拝及び平日の礼拝と諸集會を一堂に会して行うことを休止する期間は、当初は本日5月3日までの予定でした。しかし、その後の状況は全国に緊急事態宣言が出されている中で東北教区としては引き続き予防策を講じる必要があると判断し、一堂に会しての礼拝休止期間が5月30日（土）まで延長となりました。

本当に長い期間、ご一緒に集まって礼拝をすることが出来ない事を残念に思います。私は日頃から教会は建物ではなく、イエス様を信じる人たちが集められた群れであることを皆さまに語って参りました。

しかし、今は「集まる」ことは出来ません。それでも私たちは教会なのです。集まって一緒に聖書のみ言葉を聴き、聖歌を歌い、代祷を献げ、イエス様の体と血の聖餐を分かちあうことは出来なくても主によって結ばれた私たちはそれぞれの場で、それぞれの場で聖書を読み、静かに目を閉じて祈りましょう。

聖公会は世界に広がっています。アングリカンコミュニオン（世界の全聖公会の交わり）は、以下の言葉を分かち合います。原文は英語ですが、日本語で紹介します。

「教会は閉じているのではありません。ただ、建物だけを閉じているのです。なぜなら、私たちが教会だからです。私たちこそが、主イエス・キリストの生ける（からだ）だからです。そして私たちはこの世界中、至るところに存在しているからです」

私たちが教会なのです。そして私たちは今集まることは出来なくてもそれぞれの場にイエス様から派遣されています。

そんな思いを大切にしながら、復活第4主日の聖書のみ言葉に心を向けて参りましょう。

ヨハネによる福音書第10章1節～10節をじっくり読んでください。

復活節第4主日は、伝統的に「羊飼いの主日」と呼ばれています。「私は良い羊飼いである」と言われた主イエス様の有名な御言葉を皆さんもすぐに思い浮かべるのではないのでしょうか。

「わたしは良い羊飼いである」が記されているのは11節です。今日の福音書はその直前の10節まで

です。今日、私が皆さんと分かち合いたいのは7節にある「わたしは羊の門である」と言われた御言葉です。

皆さん、「門」と聞いて想像するものは何ですか。門扉、入場門など建物ならばその象徴、入場門の前に立つと運動会やスポーツの競技に参加する選手、また見守る人たちの気持ちが高揚します。また、建物が解体されて、門扉だけが跡地に遺されることもあります。それは過去にこの地にあった歴史を門は後世に伝えていく役割があるのだと思います。「門」は私たちにとって大切なものです。

イエス様は「羊の門」です。羊とは私たちのことです。わたしたちはイエス様という門を通してのみ救われるのです。この門を見失うと大変です。いや、見失っていることの方が多いのかもしれない。

見失うと私たちはどのようにして生きて行ったらいいのか迷い、悪魔の誘惑にさらされます。

そんな私たちを羊飼いであるイエス様は探しにきます。そして「門」を見失わないように私たちを正しい方向へと導こうとされています。

ヨハネによる福音書16章33節でイエス様は次のように語っています。

「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」

この御言葉は苦難の中にある時、私たちを力強く励ましてくれます。

どうぞ、「羊の門」を見失わないでください。

良き羊飼いである主イエス様が皆さんの信仰を強め、お守りくださいますように祈ります。